

天文 13

## 「令和 8 年の天文イベント」

天文担当 片野田 裕亮

### ■ 令和 8 年の天文イベント

令和 8 年も皆既月食や流星群などのさまざまな天文現象が期待されます。今回は、鹿児島から今年観察することができる、主な天文現象について紹介します。

#### 〈令和 8 年の天文イベント〉

- 1/4 しぶんぎ座流星群が極大（流星群が最も活発に活動すること）
- 3/2 レグルス食（しし座の 1 等星レグルスが月に隠される現象）
- 3/3 皆既月食
- 4/23 こと座流星群が極大
- 5/31 今年最小の満月
- 8/13 ペルセウス座流星群が極大（好条件）
- 8/19 伝統的七夕
- 9/25 中秋の名月（満月は 27 日）
- 11/15 しし座流星群が極大
- 12/14 ふたご座流星群が極大（好条件）
- 12/24 今年最大の満月

### ■ 皆既月食

鹿児島県では、3 月 3 日の 18 時 50 分頃に部分食が始まり、皆既食は 20 時 4 分頃から始まります。食の最大は 20 時 34 分頃。皆既食の終わりが 21 時



皆既月食（2022 年）

3 分頃、部分食の終わりが 22 時 18 分頃となり、観察しやすい時間帯での皆既月食となります。月が欠ける様子や赤銅色に染まる月を観察してみてはいかがでしょうか。

### ■ 2 つの流星群が好条件

三大流星群のうち、「ペルセウス座流星群」と「ふたご座流星群」が好条件となります。

ペルセウス座流星群は毎年お盆の頃に活動のピークを迎えます。今年の極大は 8 月 13 日の 11 時頃とされ、明るい時間帯で流星を見る事ができません。日本で実際に最も流星が見られるのは 13 日の夜明け前となり、出現数は、1 時間あたり 35~40 個程度と予想されています。

ふたご座流星群は、毎年クリスマス前に活動のピークを迎えます。今年の極大は、12 月 14 日の 23 時頃とされており、日付が変わった 15 日の 0 時~2 時頃には、流星が 1 時間当たり 60 個に達すると予想されています。

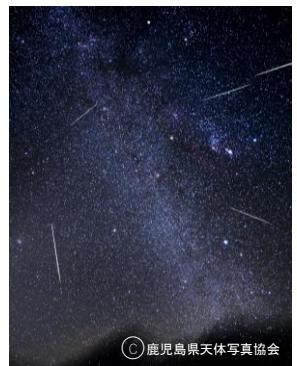
極大日の前後 1 週間は、流星を観察するチャンスです。街明かりの少ない安全な場所でリラックスした体勢をとり、空全体を観察してみましょう。

### ■ 宇宙探査にも注目

2014 年に種子島宇宙センターから H-IIA ロケット 26 号機で打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ 2」が、7 月に小惑星トリフネのフライバイ探査を行う予定です。

また、JAXA が欧州宇宙機関（ESA）と協力して行っている国際水星探査計画で打ち上げた、水星磁気圏探査機「みお（MMO）」が、11 月に水星周回軌道へ投入される予定となっています。

令和 8 年の宇宙探査や宇宙開発にも注目していきましょう。



©鹿児島県天体写真協会

ふたご座流星群（2022 年）